

2023年度 校内研修計画

鈴鹿市立愛宕小学校

1. 研修主題

『主体的に問いをもち、対話を通して考えを深め合う子どもの育成』
～社会科・生活科を通して～

2. 主題設定について

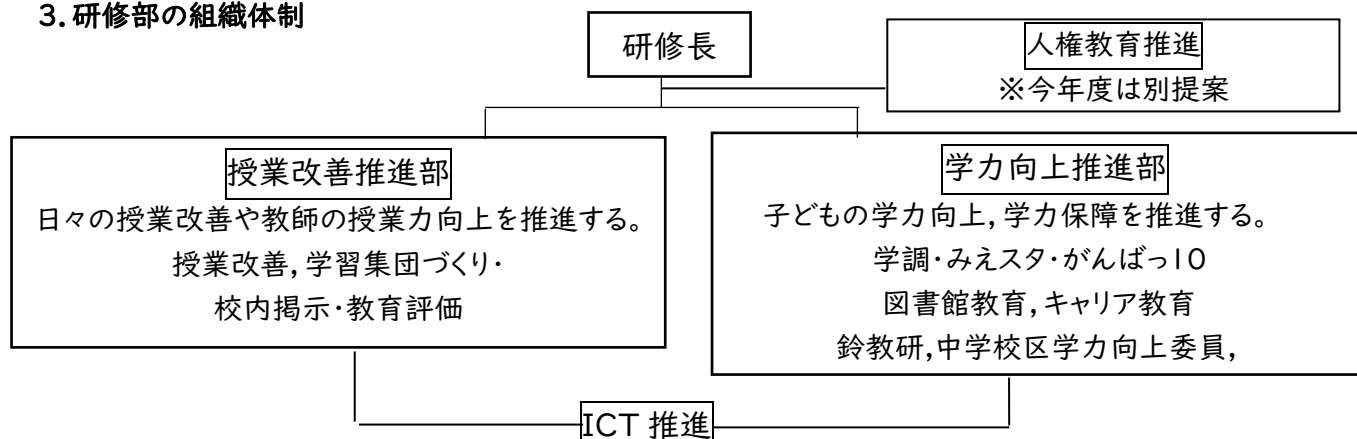
本校は、集中して静かに学習に取り組むことができる児童がたくさんいる。しかし、ここ数年のコロナ禍により児童はますます授業に対して受け身な様子が見られるようになり、以前から言われてきた学習への主体的な関心・意欲、自己肯定感の低さがさらに浮き彫りとなってきた。そこで、児童自らが主体的な学習態度の出発点となる疑問「はてな」をもち、「学びたい、調べたい」という強い意欲をもつためにはどのような手立てがあるのか研究する必要性を感じた。そしてさらに、児童が実際に見通しをもって粘り強く調べ、自分事として問題を解決していく取組や経験を積んでいくことで、児童の自己肯定感が高まり、さらに学習意欲が高まると考えた。

また、昨年度の研究から、児童が自分の研究を伝えるだけでは対話を通して考えを深める姿ではないことを確認した。対話を通して考えを深める姿とは、児童が「新しい知識を得ること」「他者の考えを受け止めること」「自分の考えがより根拠をもって話せること」「新たな問いや考えが生まれること」であると考えている。そのためにコロナ禍で控えていたペアワークやグループワークの充実を図り、対立軸をつくって話し合ったり、根拠をもって話し合ったりする活動を取り入れていきたいと考える。

さらに、これまでの研究では、社会的な課題を教科書の中の遠い出来事から、身近な出来事として考えることができ、問いが持ちやすくなると考え、身近な地域教材を取り扱うことを手立てとして取り組んだ。その結果、地域の人たちとの対話の中で、疑問や調べたいことが生まれ、さらにその対話を通して児童間の対話が生まれ、深め合うことができるということが分かった。行動制限がなくなり、以前のように地域に出ることができるようになった今、いろいろな人に出会い、触れ合い、その対話の中から社会の学習につながる問いを見つけ、対話することができる。今後も、効果的な地域教材の活用についても研究を深めたい。

こうしたことから、研究主題を『主体的に問いをもち、対話を通して考えを深め合う子供の育成』とし、重点に据える教科を昨年と同様の社会科・生活科とした。また、児童の実態やお互いの考えを伝えあうためには、基礎的な学力の向上も不可欠である。そのため、学力の向上・基礎基本の徹底を大切にしていくことにした。

3. 研修部の組織体制



4. 具体的な取り組み

(1) 主体的な問いをもつために

授業改善推進部

① 導入の工夫

子どもの心を動かすような工夫をし、自分なりの『はてな?』『調べてみたい!』をもたせる。

- ・ 学びのスタートは、『はてな?』『調べてみたい!』と思わせることである。調べたくなるような『はてな?』を見つければ、子どもは自ずと追究を始める。
- ・ 導入では、次のような声や『はてな?』が生まれてくる導入の工夫が必要である。
 - 「おかしいよ!」…………… これまでの経験をくつがえす事実との出あい
 - 「ひどい!」…………… 怒りなどの心情に訴える事実との出あい
 - 「やってみたいな!」…………… 今まで経験したことのない事実との出あい
 - 「えっ、何だろうな?」…………… 知りたいなと思わず事実との出あい
 - 「すごいあ!」…………… 憧れや尊敬すべき事実との出あい
 - 「私はこっちの立場なんだけど」… 価値の対立を引き起こす事実との出あい
- ・ 簡単な場面に出会わせながら、『はてな?』の作り方を子どもたちに教える。
- ・ たくさん『はてな?』をもつことのよさを価値付けていく。

② 子どもの『みる目』

- ・ 問題事象(地域の現実や身の周りの問題)に出会ったときに、いろいろな『はてな?』『調べてみたい!』が生まれてくるための『みる目』を育てる。
- ・ 一年間を通して、様々な学習の中で『みる目』を育てる。

③ 地域教材を活用して、『出あわせ方』の工夫する。

- ・ 単元のはじめの段階で地域の人やものと出あわせる。
- ・ 子どもたちの中に困り感が生まれたときに出あわせる。
- ・ 1回の出あいの体験だけでなく、必要に応じて何回も出あわせる。
- ・ 別の視点をもった複数の(多角的・多面的な)との出あいがあると、さらに深い学びになる。視点が変われば、考え方も大きく変わるため、子どもたちの心は揺れ動く。

(2) 対話を通して考えを深め合う子どもの育成のために

① 問い返し

教師が「どうしてそう思ったの?」「〇〇じゃだめなの?」など、問い返すことで子どもが「なぜそれでいいのか」をさらに考えるきっかけとなる。・ 子どもたちの話し合いを活性化させるために、教師の発問・問い返し等の技量を高める。

例)「気になった考えある?」「いいなと思った考えある?」…深める、友達の考えに共感させる時

「納得できる?できない?」「自分ならどうしたい?」…自分の問題として捉えさせたい時

「どうしたらわかるのかな?」…子どもの追究意欲を高めたい時

②意見の対立

問題に対する子どもの対立状況を板書などに整理し、それぞれの意見の根拠を捉える。

- ・ 賛成派(〇〇 人数) VS 反対派(△△ 人数)
- ・ A派 VS B派 VS C派 など

話し合いの中で、自分がどう考えたのか、また、友だちと自分の考えとの共通点や相違点の発見がしやすくなる。さらに、意見が変わったきっかけが何だったのか整理しやすくする。

③ペアワーク・グループワーク

自分の考えを明確にしたり、発表に自信を持たせたりすることができる。話し合わせる内容や目的についても明確にする。(※ペア・グループワークの仕方なども含めて夏に研修したい。)

「反応の仕方」→うなづき、相槌、笑い、驚きを交えて対応

「意見のつなぎ方」→話型(※系統など夏に研修したい。)

④効果的な資料の提示

資料からの気づき・疑問などが教材との対話となり、子ども同士の対話につながっていく。

(3) 学びを支えるために

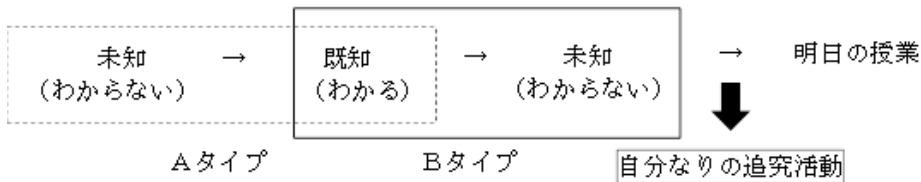
- ① 友達の発見や気づきを認め、全体で共有する。認められることで自主性が育つ。
- ② 良いところをほめる。できなくて当たり前。「できたらすごい。」と要求を下げる。できてないことを叱る×
できていることをほめる○
- ③ 児童間の温かい関係性を育てる。「すごいなあ」「いいよ」「どうしたの」認め合う関係。
- ④ 聴く力を養う。など話しやすい雰囲気づくり。
- ⑤ 授業の学び方を教える。「聞き方」「意見の言い方」
- ⑥ 明確な指示→一時に一事の指示。できるようになれば一事に多事の指示へ。
- ⑦ しっかり確認→指導力は徹底力。根気強く続ける。
「指さし」「読み終わった人から座る」「隣の人と比べる」「一か所チェック」
確認したときに必ず「ほめる」「励ます」「フォロー」する。
- ⑧ 待たないで待つ→来たものから音読、学習を始めるなど

(4) 自ら追究し続ける子にするために

① オープンエンドの授業で、授業と授業の間を活かす。

- ・ 授業の後半に新しい『はてな?』を持たせ、子どもたちが「あれ?どういうこと?知りたいな!」という気持ちになったところで授業を終える。はじめのうちは、「え～、答え教えてよ!先生は知ってるんやろ。ずるい!」といった反応を示すはざである。しかし、次第に家や休み時間を使って調べてくる子が現われる。
- ・ 自主的に調べてきた行動を価値付ける。オープンエンドの授業と価値付けを繰り返すことで、自ら追究する子どもを増やす。
- ・ 授業のオープンエンド化は、毎時間する必要はない。重要な部分を時間をかけて追究させることで、子ども

たちが『はてな?』を見つけて授業を開いてくれるようになる。



②子どもが主体的に取り組む意欲を高める発問の工夫をする。

(5) 研究授業・公開授業

①研究授業

年間に各学年最低 1 本ずつ研究授業をして授業力をつける。授業をするにあたっては、学年で話し合ったり、事前授業を行ったりして協力して取り組む。

全体研修学年部(低・中・高)3本。学年部研修(低・中・高)3本。

①公開授業

5年以下研修に向けて学年で取り組み、授業力アップを図る。

事前に同じ学年の先生と指導案の検討を行う。また、同じ学年の先生が事前授業を行う。

(6) 地域や学校の特徴を生かしたカリキュラム・マネジメント

・各教科の関連を考え、教科を横断的に学習することにより、教育課程を構成するすべての教科がそれぞれの役割を果たすと同時に、各教科で養った能力を他の教科でもより効果的に活用させる。

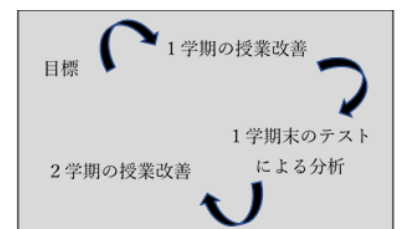
学力向上推進部

(1) 学調・みえスタ

全職員でみえスタ、学調の結果分析を行い、学校全体や担当学年の強みと弱みを分析する。特に学調では校内で分析を共有し、今後の学習につなげるために、夏に研修を行う。

(2) 成績の平均・まとめテスト

- ・旧学年から引き継いだ各学年の強み・弱みを参考にしていく。
算数、国語の一年間の成績の平均 → 校務系 → 研修 → 成績の引継ぎ
- ・全学年が算数の学期末テストを購入し、担当学年の学習の課題を分析し授業改善する。また、あゆみ渡しなどで、保護者への理解を求める材料とする。



(4) モジュール学習について

新出漢字、漢字テスト、よむ・かくシート、よむ YOMU シート、学び場など

(5) がんばっ10

学習に向かう基本的な姿勢を確実に定着するよう、日々指導する。特に年5回(1学期2回・2学期2回・3学期1回)がんばっ10がんばろうウィークを設け、集中的に取り組む。

がんばっ10	2023年2月
1 チャイムが鳴ったらすぐに席に着く。	84%
2 開始・終了のあいさつははっきりした声で気持ちよく行う。	83%
3 正しい姿勢で椅子に座る。	71%
4 指名されたら「はい」と返事をし、起立して答える。	82%
5 授業者や発表者の顔を見て反応する。	79%
6 相手が聞きやすい声で発表する。	79%
7 聴く・話す・書く・考えるのけじめをはっきりとする。	76%
8 鉛筆は5本程度用意しておきいつも削っておく。	77%
9 ノートに書くときは下敷きを使う。	81%
10 筆算のときは定規を使って線を引く。	90%

8 筆箱の中身は、鉛筆4~5本、赤鉛筆1本、青鉛筆1本、消しやすい消しゴム1個、ミニ定規、名前ペン1本

(6) 図書館教育(別紙参照)

- ①朝の読書活動
- ②読み聞かせ
- ③読書活動の充実
- ④年間貸出冊数目標 一人あたり35冊達成

(7) 愛宕小学校のこれまでの取組と授業力 UP5

- ・ 板書の工夫→「問題、めあて」→「みんなの考え」→「まとめ」→「適用問題」「振り返り」
- ・ 学年に応じたノート指導をする。(見開き2ページ)
- ・ めあて・問題・まとめは「青」で囲み、大事な言葉は「赤」で書く。
- ・ 「まとめ」の工夫(用語、文字数などを指導して自分でまとめる指導。
- ・ 学年に応じて教具の工夫(具体物→半具体物→数直線)をする。体験的な活動を大切に、量感を身に付けさせる。

「授業力UP5★」

～子どもたちが主役の授業へ～

★ 資質・能力

- ・ 育成を目指す「資質・能力」が明確になっているか。
- ・ ねらいを達成した児童生徒の姿が具体的に想定できているか。

★ めあて

- ・ 主体的に学習に取り組める「めあて」になっているか。
- ・ 授業で何をやるか（見通し）が明確になっているか。

★ 学習活動

- ・ 課題解決に向け、個別の学習活動が設定されているか。
- ・ 自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き合ったりする協働的な学習活動が設定されているか。

★ まとめ 振り返り

- ・ 「めあて」に正対した「まとめ」や「振り返り」になっているか。
- ・ 「何を学習し、何が分かったのか、何ができるようになったのか」等、振り返りの視点が明確になっているか。

★ 端末活用

- ・ 学習のねらいを達成するための手段として、効果的な活用場面が設定されているか。

- ・ 端末の活用が、個別最適な学びや、協働的な学びにつながっているか。

★…1時間の授業を考える5つの視点

(8) 確実な家庭での学習習慣

- ・ 家庭学習の目安となる時間を示し、保護者にも協力を呼びかけて取り組む。
- ・ 毎日、必ず「読み・書き・計算」の3種類をする。学年に応じた自主学習もする。
- ・ 宿題の提出率100パーセントを目指す。
 - 個別の声かけ・支援、保護者と連携
 - 成長の「見える化」(クラス掲示、シール作戦)
- ・ 家庭学習の手引きで家庭学習の大切さを伝える。
- ・ 「とてもきれいだね!」「とめ・はね・はらいがかんぺきです!」といったコメントを書き、家庭学習への意欲付けを行う。

家庭学習の手引き

家庭学習で自ら学ぶ力を

家庭学習の目的

家庭学習の内容

自分の時間

学習の評価

ICTの推進(別紙参照)

- ・ 社会やそのほかの授業でのICTの活用について
- ・ 家庭学習での活用について

5 校内研修と校内全体研究授業について

(1) 校内研修日程

日にち	授業等	研修	
4/12(水)		校内研修会①(生指・研修) 今年度の生活科・社会科について等	
4/26(水)		校内研修会② 全国学力・学習状況調査、 みえスタディチェックの採点・分析	
5/8(月)	石井先生より	校内研修会③ フィールドワーク研修 (15:00~16:30)	
5/24(水)		校内研修会④ 小学校学習指導要領 社会編 について	
6/6(火) (事前研5/31水)	研究授業6年 (全体)	校内研修会⑤ 研究授業・事後研	
6/29(木) (事前研6/20火)	研究授業3年 (学年部)	校内研修会⑥ 研究授業・事後研	
7/21(金) ~24(月)		ぐんぐん学習(夏休みの補習) ※2日間(各クラス4名ほど)	
7/28(金)			子どもレポート交流会 午後1時半~
8/1(火)		校内研修会⑦(PM) 鈴教研发表レポート発表に向けて ICT研修	
8/2(水)		校内研修会⑧(AM) ・ペアワーク・グループワーク ・話型について ・鈴同教実践研究大会 レポート発表に向けて	校内人権教育研修会(PM) 困り感をもつ児童への理解と 支援について
8/17(木)		鈴鹿教育研究集会レポート発表	
8/24(木)		(職員会議 AM) 校内研修会⑨(PM) 全国学力・学習状況調査から ・学校の分析・今後の課題	
11/8(水) (事前研10/30月)	研究授業2年 (学年部)	校内研修会⑩ 研究授業・事後研	
11/22(水) (事前研11/13水)	研究授業4年 (全体)	校内研修会⑪ 事後研	
11/29(水) (事前研11/22水)	研究授業5年 (学年部)	校内研修会⑫ 事後研	
1/29(月) (事前研1/22月)	研究授業1年 (全体)	校内研修会⑬ 事後研	

2/2(金)		校内研修会⑭ みえスタディチェック採点・分析	
2/28(水)		校内研修会⑮ 1年間の研修の反省・まとめ	
3/4(月)		校内研修会⑯ 来年度に向けて,本年度の研修集録 作り等	